

ユニセフの 開発のための教育

あなたのクラスでやってみませんか！



ランジャンと井戸

【目的】

途上国に暮らす子どもの状況の一端を知り、「子どもの権利条約」で定められている権利のうち、どのような権利が守られていないか、どのようにすれば守れるようになるのかを話し合う。また、活動を通じて「子どもの権利条約」に親しむ。

【所要時間の目安】 45分

【人数】 5人グループで数グループ

【用意するもの】



下のA、Bシートを拡大コピーしたものを人数分

「子どもの権利条約」の条文カード
(ユニセフ協会発行の『子どもの権利条約カードブック』『ユニセフと世界のともだち』『開発のための教育』に掲載)

「子どもの権利条約」条文カード

すすめかた

参加者全員に下図A「ランジャンの暮らし」シートを配り、よく読んでもらう。

その間指導者は「子どもの権利条約」の条文カード(1条から40条の条文をカードにしたもの)を各グループに1セット配る。

全員が「ランジャンの暮らし」を読み終えたら、ランジャンのどのような権利が守られていないか各グループで話し合い、守られていないと思われる条文カードを選び出す

各グループは選んだ条文を発表し、板書する。そのとき、どのような理由で選んだのかということも簡単に発表する。

発表を終えたら、参加者全員に下図B「井戸ができた!!」シートを配り、よく読んでもらう。

全員が読み終えたら、井戸ができたことによりランジャンにとって守られるようになった権利について話し合い、で選び出した条文カードから守られるようになったものを引き抜く。

各グループは引き抜いた条文を発表し、で発表した条文番号にX印をつける。そのさいの理由も簡単に発表する。

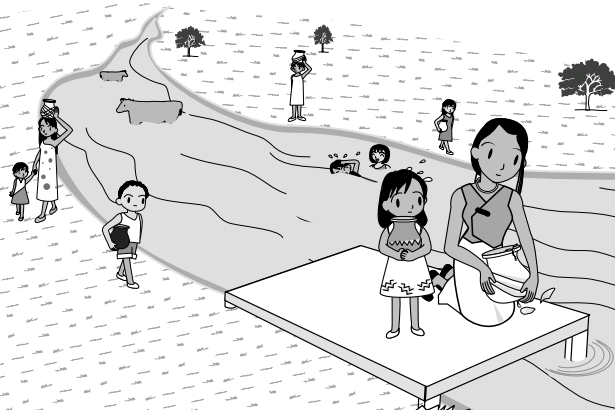
全グループの発表が終われば全員で板書のようにすを見ながら、村に1つの井戸ができたことによってランジャンの権利がどのように守られるようになったか、まだ守られていない権利は、今後どのような活動をすれば守られるようになるかを話し合う。

A ランジャンの暮らし

ランジャンは7歳の女の子です。今日も朝からお母さんといっしょに2キロほど離れた水場まで水をくみに出かけます。太陽がのぼりはじめると、あっという間にじりじりと焼けつくような暑さが広がり、ランジャンは重い水がめをかかえて汗びっしょりです。

1日にこの水場まで足を運ぶ回数は3回くらい。6人家族の生活に必要な60リットルほどの水を毎日お母さんとランジャンが運んでくるのです。学校へ行っている時間以外はほとんど水をくんでいるようなものです。1日の終わりにはへとへとに疲れきってしまい、学校の宿題もしっかりできません。

それに、あの水場の水で赤ちゃんが病気にかかって亡くなってしまったという話を聞きました。水場の近くでは牛などが水浴びをしていて、見た目にもあまりきれいではないのです。



B 井戸ができた!!



ある日、ランジャンのお母さんや村の女性たちは村長に相談しました。

村長が州政府に掛け合った結果、井戸ができることになりました。ユニセフと州政府が地質調査をして、掘削機で井戸の穴を掘ります。村の人たちは資材を運び水場のコンクリートを打ちます。修理や手入れの簡単な手押しポンプが村の人たちによって取り付けられるといいよ完成です。

ごぼごぼ、という音がして水がふき出しました。はじめは濁っていた水もだんだんと透き通ってきます。みんなの歓声がわきあがりました。ランジャンも大喜びです。この井戸なら家からほんの3、4分の距離なのです。

明日からはこの井戸の管理や修理のための研修が始まります。そして同時にトイレも整備されることになっています。何だか村には活気が満ちてきたようです。